

共同通信社杯で鎖骨を骨折した石原颯 「寛仁親王牌には間に合わせるつもりです」



同期の山口拳矢が共同通信社杯で優勝した姿を、石原颯は病院で見ていた。2日目に落車して、左鎖骨を骨折。「調子の波が底という感じで…。それを安定させるのが課題です」。競輪選手になつて、きついのは同期と比較されることだと話す。エッ、この企画もそうなんです。申し訳ありません。

中学、高校と陸上8種競技の選手。スポーツが好きで、競輪を初めて見たのが2016年の立川グランプリ。稻垣裕之の男氣先行を、村上義弘が3コーナーで番手まくりを打つて勝ったレースだ。これを見て、選手になろうと決めた。初のG1は前回の菊池岳仁と同じく8月のオールスター。4走して、1勝、2着1回、9着2回。2着は鐘前からの先行で、小倉竜二に差された。勝ったのは3走目。アクシデントがあつたが、後方に置かれてながら、ホームから仕掛けで、前を捕らえている。僕のイメージは、早めに前へ出て、そのまま

まペースに持つていく先行選手。そう聞いたら、「カマシの方が得意です」ということは伸びしろはまだまだたくさんあるというこど。楽しみ。

俺のここを見てくれ!は何?。速攻で「先行しているところ」の返事。ラインで決めることを信条にしていますとも。

この親王牌がG12回目。「1回出たくらいでは、まだまだ雰囲気に慣れていないです」。これら何十回となく経験を重ねて強くなっていくんだな。鎖骨骨折だから、出場はどうかなと思つていたけど、「しっかりケガを治して、力を出し切ります」。まだ21歳、身長170cmの先行選手は、讃岐うどんよろしく、こしがある。こういう締め、気恥ずかしい。

▽弥彦競輪 寛仁親王牌

世界選手権記念トーナメント
それいけ117期 第3話
【新潟スポーツ 信氏 忠】

